

第1・2学年生活科授業構想シート

授業者 川村 繁博

本実践の主張点	フローチャートを比較して手順や運営に必要な要素を推考することで、生活科における探究力と省察性が育まれるだろう。
---------	---

1. 単元名 あそび名人なろう

2. 1・2年F組の子ども

本学級の子どもたちに限ったことではないが、新型コロナウイルス感染症の影響のため6月までは臨時休校、その後も短縮の分散登校となり、複式の特徴であり利点である異学年交流が十分に行えていない。また、生活科の学習も4月から6月に予定していた単元も家庭学習課題となり、子どもたちの協働的な学びの機会も十分にはもつことができなかった。1年生については、学校再開後登校に不安をもつ者もあり授業での発言も消極的であった。2年生については、昨年までの蓄積もあり比較的新しい学年に順応することができたが、下学年との関わり方に戸惑う者も多かった。

2学期になり、平常時に近い学校生活を送れるようになり、両学年共に明るく意欲的に学習に取り組み積極的に自分の考えを発言できるようになった。しかし、相手意識をもって話すことや聞くことは苦手な子どももいる。感覚に頼ったものも多く根拠に弱い。これらの実態を踏まえ、フローチャートを活用することで話し合いを焦点化させより深い学びへとつなげたいと思う。

3. 何ができるようになるか

探究力	身近な人々・社会・自然に関わり、考え、判断し、表現することで、具体的な個別の対象に対する気づきを深め、探究力の基礎を養う。
省察性	実際に体験しながら思考や表現を繰り返し、改善策や願いを生む活動を通して振り返り、省察性の基礎を養う。

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

自分たちの生活や、身近な地域の出来事を身近な人々と伝えあう活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人と関わることの良さや楽しさが分かるとともに進んで触れ合い交流しようとする。

② 教材の価値

来年度、迎える新1年生を対象とすることで、異学年が目的を共有し上学年と下学年の協働的な学びを生み出すことのできる単元である。また、両学年共に上級生としての自覚をもち、共に活動し学ぶ中で1年生は新しく出会う新1年生に思いを馳せながら2年生は下学年と関わることで上級生としての役割や責任感を自覚させていくことができる。新学年での活動や学習に対する意欲・関心を高めることができる単元である。

③単元の目標を達成するためのフローチャート

おもちゃランドの計画をフローチャートに表す。おもちゃランドの流れや行動をフローチャートで可視化し振り返ることで、活動の内容を比較したり検証したりして課題を焦点化することができると思う。

5. どのように学ぶのか

①単元における授業づくりの「しかけ」

探究力を育む 主: 主体 協: 協働 活: 活用	省察性を育む 気: 気付く 決: 決める 動: 動く
主 対象を来年度入学する新1年生に設定することで、相手意識を明確にし、自尊心を高める。 協 1.2年生をグルーピングすることによって異学年の学び合いの場を生み出す。 活 2つの単元を組み合わせ関連付けることによってフローチャートの汎用的な活用を促す。	気 活動やフローチャートを比較することで活動に必要な視点を捉えさせる。 決 3つの要素をもとに、適切な活動を決定させる。 動 体験活動を行うことで見通しや検証体験をさせる。

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p>【おもちゃ名人になろう】 単元計画（全7時間） 本時5/7 <第1次> おもちゃを作ろう。 第1.2時 おもちゃを選んで作る。 第3時 おもちゃの動きを試したり、友達と一緒に遊んだりする。 <第2次> おもちゃランドを計画しよう。 第1時 おもちゃランドのリハーサルをしよう。 第2時 安全で分かりやすく楽しいおもちゃランドのための工夫を考える。 (本時) ※フローチャートの活用 <第3次> 1年生を招待しよう。 第1時 1年生を招いておもちゃランドを開催する。</p>	<p>【生活を見直そう】 単元計画（全2時間） <第1次> フローチャートで考えよう。 第1.2時 生活をフローチャートで見直そう。</p>
--	--

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自分たちにも新1年生にしてあげられることに気づいている。	新1年生が喜んでくれることなどを考えている。	新1年生が喜んでくれる準備や工夫を意欲的に話したり、発表したりしている。

生活科学習指導本時案

授業者 川村 繁博

日時：2020年12月22日（火）第2校時（9：45～10：30）

対象：第1.2学年F組 16人

本実践の主張点	フローチャートを比較し、おもちゃランドの運営に必要な要素や手順を推考することで、生活科における探究力と省察性が育まれるだろう。
---------	---

1. 本時の構想と学習課題について

子どもたちは、来年度入学する新1年生を迎える会の1つとして、臨時休校中に作ったおもちゃの中から興味・関心別に4つのグループに分かれておもちゃランドを計画した。臨時休校中の家庭学習では行えなかった作ったおもちゃで友達と遊ぶことや、遊び方やゲームのルールを決めることなどを経験した。

前時では、おもちゃランドの流れをフローチャートに表してから、その手順に従いペアグループをお客さん(新1年生)に見たててリハーサルを行い、ペアや自分達のおもちゃコーナーについての改善点について気づいたことをメモした。内容は、子どもたち自身まだ伝えあっていないが、フローチャートの内容に沿って「足りないと思われるものや必要と思われる新しい項目を考えようとしている者」「おもちゃの完成度が気になった者」「うまくいって楽しかったと感じている者」の姿が見られた。

本時は、これらの気づきをもとにおもちゃランドの内容や自らの行動を振り返り、おもちゃランドの運営に必要な要素に関する項目や手順を考えさせる。

2. 本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

新型コロナウイルス感染症の影響で子どもたちはこれまで、従来行ってきた交流学习や体験活動を充分には行うことができていない。そのため、相手意識をもつことや、自らの行動を俯瞰的に捉えて計画したり、推考したりする力はまだ十分に育っていないと感じられる。

本時では、前時での体験と体験をもとにした気づきから「相手意識(対象とする新1年生)」と「安全」「分かりやすく」「楽しく」という3要素に着目し整理させることで、探究の質を高める。

3. 本時におけるプログラミング思考

上述したようにフローチャートを用いて、活動内容を比較したり、検証したりすることでおもちゃランドの運営に必要な要素に関する項目や手順を推考させる。

フローチャートで、自らの活動を可視化し話し合うことで省察を促し、「安全」「分かりやすく」「楽しく」という3要素を満たすための適切な項目や手順を見出させたい。

4. 本時の目標

新1年生が喜んでくれるおもちゃランドの準備や工夫を意欲的に話したり、考えたりすることができる。
 【主体的に学習に取り組む態度】

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
1. 前時の振り返りをする。 ○前時の活動から、楽しかったことや困ったことを交流する。 2. 学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃの完成度についての内容についてははじめに取り上げて今後の課題とする。
めあて おもちゃランドをもっと 分かりやすく 楽しく 安全に しよう	
○必要な項目や手順を探る。 ・人がたくさん来るから「密」になる。⇒ ☆コロナ対策しなくちゃ。 並び方を工夫ができないかな。Etc 【安全】 ・説明がよく分からない。 ・字が分かりにくい。⇒ ☆お手本を見せればいいんじゃない etc 【分かりやすく】 ・あまり遊べない。 ・1回しかできなかった。⇒ ☆回数を増やすといいかも etc 【楽しく】 3. 課題解決をする。 ○グループでフローチャートを修正する。 4. 交流する。 ・変更内容と理由を紹介する。 5. ふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> 思考を整理するために「安全」「分かりやすく」「楽しく」の3要素に分類する。 各グループのフローチャートの項目を比較させながら、必要な要素をもとに項目や順序に着目させる。 【安全】おもちゃの扱い方 新型コロナウイルス感染症対策 etc 【分かりやすく】【楽しく】 新1年生の特性 順序、繰り返しを意識させる。 「安全」「分かりやすく」「楽しく」の3要素を満たすために、フローチャートの修正を行う。 主おもちゃランドの準備や工夫を意欲的に話したり、考えたりしている。【発表・ワークシート】